



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 112 号 ■

ファルマ弘前薬局 地鎮祭・工事着工

本部 課長補佐 鈴木 健仁

9月10日(土) 11時から、オフィス・アルカディアの新薬局建設地で、工事関係者や津軽保健を含む青森県民医連の各法人代表者を招き、工事安全を祈願して地鎮祭が行われました。司会には西村組の太田専務、神主は弘前八幡宮でした。石川社長、京都建築設計事務所

の川下社長の献入れ、関係者による玉串の奉納と、皆様のご協力により滞りなく地鎮祭を終えることが出来ました。地鎮祭の後は、ラグリーに場所を移して食事を開きました。崎野部長の司会で始まり、各関係者のご挨拶もあり今まで以上に交流を深めることが出来ました。最後は高松常務の一本締めで食事を終えました。

9月15日(木)からは、いよいよ本格的な工事着工となりました。建物の基礎となる地盤を、強いものに改良するところから工事は始まっています。9月27日(火)の打ち合わせでは、外壁の色(2階が白、1階が黒)とサッシ(黒)の色を決定しました。実際の工事現場に行くと、『やっ」と工事が始まる』という思



地鎮祭に参加されたファルマの皆さん

2016年度全日本民医連薬局法人 代表者・専務合同会議 in 東京

常務取締役 高松 利昌



講演する道南勤医協理事長の堀口医師

9月9日(金)と10日(土)の二日間にわたって、東京・有明の東京ファッショントウンビルで開催された全日本民医連薬局法人代表者・専務合同会議に石川社長と参加しました。

今回の会議の目的は①全日本民医連が目指す無差別平等の地域包括ケアについて学ぶこと、②保険薬局をめぐる情勢を共有し、民医連保険薬局の重点課題を議論すること、③各法人での取り組みを交流することの3点にありましたが、10日にはファルマ弘前薬局の起工式(地鎮祭)の日程が入っていたことから、初日だけの参加となり、実際の議論、交流する場に参加できなかったことがとても残念でした。

前回の同会議は2014年に開催され、「健康づくり地域薬局」の活動を広げること、地域包括ケアシステムへの対応と他職種連携の強化、無料低額診療事業等受療権を守る闘い、非営利型の一般社団法人への移行などが提起されていました。今回の会議は、これら提起された内容がどのように全国的に実践され、豊かな経験を積んできたかを交流する場でした。

その上で、安倍政権による社会保障制度の解体が具

体的に、現実のものとなってきている情勢の中で、「かかりつけ薬局・薬剤師」「健康サポート薬局」「患者のための薬局ビジョン」など、薬局再編が進められてきていることを確認し、今回の「健康サポート薬局」が民医連保険薬局がこれまでも目指し、積み重ねてきた保険薬局像に近いもので、次回診療報酬改定までの2年間で私たちの業務を「健康サポート薬局」の視点から見直し、整備することが先ず提起されました。

また、今回の診療報酬・薬価改定は経営的に薬局法人に大きな影響を与えているけれども、予定されている消費税増税への対応と併せ、共同の力を発揮すること、特に経営幹部は自身の

法人経営に責任をもつ意味でも、情勢を切り拓く気概をもって経営課題と受療権を守る等の運動課題の両面を強力に推進していくことが改めて確認されました。

なお、9日の全体集会では問題提起の他、経営実態調査、報酬改定影響度、健康サポート薬局、疑義照会による有効で安全な薬物療法の取り組みと併せ、「静岡民医連におけるかかりつけ薬剤師の活動」「山の下の地域包括ケアネット」など指定報告3演題と「地域包括ケアと民医連保険薬局の役割」と題して北海道民医連・道南勤医協理事長の堀口信医師からの講演がありました。

「山の下地域包括ケアネット」など指定報告3演題と「地域包括ケアと民医連保険薬局の役割」と題して北海道民医連・道南勤医協理事長の堀口信医師からの講演がありました。

薬局にしたい」をテーマに意見交換をしました。短い時間でしたが、ユニークで目からウロコの意見がたくさん飛び交いました。組合員皆さんが、新薬局や今後のファルマの運営についてアイデアをもっていることがうかがえました。

納涼会は焼き肉店で行われ、和気あいあいと食事を楽しみながら組合員同士の交流を深めることができました。

今後も執行部として、組合員の意見を吸い上げることと努め、労使一丸となってファルマを発展させていこうと考えています。

「山の下地域包括ケアネット」など指定報告3演題と「地域包括ケアと民医連保険薬局の役割」と題して北海道民医連・道南勤医協理事長の堀口信医師からの講演がありました。

薬局にしたい」をテーマに意見交換をしました。短い時間でしたが、ユニークで目からウロコの意見がたくさん飛び交いました。組合員皆さんが、新薬局や今後のファルマの運営についてアイデアをもっていることがうかがえました。

納涼会は焼き肉店で行われ、和気あいあいと食事を楽しみながら組合員同士の交流を深めることができました。

今後も執行部として、組合員の意見を吸い上げることと努め、労使一丸となってファルマを発展させていこうと考えています。

**ファルマ労働組合
経営学習会&納涼会**

弘前調剤センター 主任
高橋 和希

9月3日(土) ファルマ労働組合主催の経営学習会と納涼会を開催しました。

経営学習会では、西村組様にご挨拶をいただいた後に、崎野部長からの経営報告、石川社長からの今後の展望などについてお話をさせていただきました。グループワークでは、「こんな新

全日本民医連第42期第1回社保委員長会議 in 東京

本部 事務長 舘田 総子

9月22日(木)〜23日(金) 東京の全日本民医連がある平和と労働センターで第42期第1回社保委員長会議が開催されました。

憲法の成り立ちと世界の社会保険を学習し、2日目の分散会では各代表とともに特徴ある活動について意見交換しました。

全県連の社保委員長や県連事務局長など社保運動の責任者が130名参加しました。この会議では、これまでの1年間の活動総括と今後1年間で取り組むべき課題を2日間で協議し確認しました。1日目は立教大学の芝田教授による講演で

社内社保委員会が「教育・職員育成の場」と位置付けていること、青年職員のレジャー活動とともに戦争法廃止活動を紹介しました。社会保障の解体が始まっている中で、はたらく現場や地域の中に多数の困

難事例がありますので、私たちのアンテナを高め運動につなげていく必要があります。

この会議では、人々のいのちとくらしを守る、私たち民医連職員の使命とする社保運動と、私たち自ら困難に立ち向かい民医連の魂をもってたたかうために、「重要な6つの視点」と、運動の推進とともに多方面の方々と共に闘い、大きなたかいにするために「必要な4つの連携」が提案されました。

今後1年間で取り組むべき具体的な行動提起がなされ



ファルマの活動を報告する舘田事務長

「進め!」ドクター大竹の会 講演会に参加して



黒石薬局 主任 小田 徳子

9月9日(金)、青森市民ホールにて「再処理工場から放出されるトリチウムと白血病の関連」と題した学習会があり、参加しました。医学博士の森永徹先生が青森にいる娘さんの結婚式に出席するために来青されたタイミングでの講演会とのことでした。出席者は多くはありませんでしたが、皆さん、専門家のような方々ばかりでした。チェルノブイリや福島の原因事故で放射性ヨウ素やセシウムなどは知っていましたが、トリチウムって何? と疑問が湧き上がり聞いてみたところ、まず「トリチウムはきれいな原爆!?」として垂れ流されている」といいます。トリチウムは3重水素のこと

で、重水素と核融合反応させて水素爆弾が作れます。起爆剤として原爆を使わなければいけない核爆弾と言われているようですが、これがとんでもない!! トリチウムは要は放射性水素であり、放射性ではあるがその化学的性質は通常の水素と変わらないため水やタンパク質、脂肪などを構成する原子となり得ます。体の中に取り込まれ、ひとたび有機物と結合したトリチウムは長い時間をかけて体内に蓄積されることになり(生物濃縮)、そしてベータ(β)線を出しながらヘリウムに変化する。そのベータ線がDNAを損傷させ、分子を破壊する。DNAの異常はやがてがんの発症や遺伝的影響を起こしていき

森永先生は玄海原発周辺で白血病が異常に増えていることに注目し、フランスのラ・アージュ再処理工場や米国の原子力関連施設周辺の白血病死亡率などと合わせ、放射線による内部被曝の主な要因はトリチウムであるとみています。そのトリチウムが六ヶ所の再処理工場がアクティブ試験を行った2009年に異常な高値を示していたことが分かり、この先、六ヶ所や八戸地区で白血病が増えるのではないかと心配しています。福島の事故に関しては国が情報公開していないので全く不明のことです。いずれにせよ、事故がなくても原発や再処理工場を動かすことで海や空に垂れ流し続けられるトリチウム。毎日の生活の中で知らぬ間に取り込まれている放射線の恐ろしさを改めて確信し、やはり原発は失くしていかなければいけないと強く思いました。

第17回薬害根絶デー2016に参加して

弘前調剤センター 薬剤師 須藤 雪絵

8月23日(火)、24日(水)と二日間にわたり東京で行われた第17回薬害根絶デー2016に参加しました。一日目はJR御茶ノ水駅街頭宣伝と前夜集会、二日目は民医連交流集会とリーディングが行われました。

前夜集会で子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)の特徴と副反応被害実態調査でわかった症状についての講演や、副反応と闘う被害者の方々とそのご家族のお話などを聴きました。HPVワクチンの副反応で起こる症状は多様性があり、感覚系障害、運動系障害、認知・情動系障害、自律神経・内分泌系障害などがあるそうです。このような症状は接種直後の場合もあれば、一年以上経過してから現れる場合もあり、また、時間の経過とともに新たな症状が現れることも。しかし、厚生労働省はワクチン接種後1か月以降に出始める症状についてはワクチンが原因ではないと



中央市民センターにて青森空襲の展示について解説する今村修氏(写真右)

ファルマ戦跡めぐり

弘前調剤センター 薬事課 鈴木 菜夏

9月25日(日) 昨年の八戸に引き続き、今年は青森での戦跡めぐりに参加しました。最初に青森市中央市民センターを訪れ、青森空襲を記録する会会長の今村修さんのお話を聴きました。ここでは青森空襲の写真パネルや当時使用されていた生活用品などを見ることが出来ました。

そのあとは皆でバスに乗り、今村さんの説明を聞きながら空襲の跡地を車内から見たり、何箇所か下車して石碑を見たりしました。今回初めて聴いたお話もありましたが、今後自分たちが戦争を語り継ぐ世代と

なっていくのもっと知識を深めなければならぬと感じました。そして勉強した後は、参加者全員でバーベキューをしました。天候にも恵まれて美味しいお肉も食べられ、非常に有意義な戦跡めぐりとなりました。

新レジスター操作学習会

弘前調剤センター 薬事課 主任 葛西 祐一

10月3日(月)より全店のレジスターが新しくPOSレジに代わりました。導入後、操作の不熟により、患者様へご迷惑をお掛けしない為に、レジに携わる全ての事務職員が講習を9月12日(月)〜16日(金)の5日間で行いました。新レジスターでは新たにクレジットカードも使えるようになりまし



厚労省前でのアピールに参加した須藤薬劑師

切り捨てていたそうです。今回薬害根絶デーに参加して薬害根絶への取り組みやHPVワクチンの副反応被害の実態を知ることができ、色々と学ぶことができました。

10月3日(月)より全店のレジスターが新しくPOSレジに代わりました。導入後、操作の不熟により、患者様へご迷惑をお掛けしない為に、レジに携わる全ての事務職員が講習を9月12日(月)〜16日(金)の5日間で行いました。新レジスターでは新たにクレジットカードも使えるようになりまし



弘前調剤センターでは自動釣銭機も導入になりました。

「第11回働くものたちの健康を守る東北セミナーin宮城」に参加して

弘前調剤センター 主任 阿保 香織



シンポジウムの様子

9月24日(土) 25日(日)に「第11回働くものたちのちと健康を守る東北セミナーin宮城」が松島で開催されました。

1日目は「東日本大震災と原発事故から5年—いのちと健康のこれからを考える」というテーマでのシンポジウム、2日目は分科会が行われ約100名が参加しました。

1日目のシンポジウムでは原発労働者の労働環境や健康管理の問題について発表がありました。

多重下請け構造の中、2次下請け以下は「求人票」「雇用契約」などの書類がなく口約束で働いている現状や、相次ぐ熱中症事故について東電は「最近作業現場の放射線量が低くなってきており軽装で作業が出来るようにしたので熱中症事故は減ってきている」と説明しましたが、逆に軽装でいいのかなど健康管理上の問題も多数存在していることを知りました。

日本褥瘡学会学術集会 in 横浜

弘前調剤センター 薬剤師 木村 太郎

9月2日(金)〜3日(土)、「第18回日本褥瘡学会学術集会」は全国から7000人を超える参加者が集まり、横浜にて盛大に開催されました。

褥瘡とは、寝たきりなどにより血流が悪くなることで起こる皮膚の疾患のことです。一般的には床ずれとも呼ばれているものです。

今学会のテーマが「深まる知識、広がる連携」であるように褥瘡は医師や看護師、薬剤師など様々な職種が協力して治療に取り組む

ことで治療期間の短縮と医療費の削減ができるというわれ、近年この他職種との連携が重要視されています。

二日間にわたり外用薬の選び方やその使用法、他職種連携の実例といった最新の褥瘡治療について学びました。

薬局薬剤師による発表も多数あり、まだまだ自分



参加した木村薬剤師

日本高齢者大会 in 東京

弘前調剤センター 薬局長 相馬 渉

8月28日(日)から29日(月)、第30回日本高齢者大会 in 東京に参加しました。

1日目は学習講座が12講座、分科会が22あり、4000名の参加、2日目の記念講演は5000名が参加し、過去最大規模の大会になりました。東京国際フォーラムは、すごく立派な建物で、多くの元気な高齢者が参加した活気

あふれる大会でした。

記念講演は「憲法70年 未来へのメッセージ」というテーマで鳥越俊太郎氏が話されました。ロッキーマで力強く入場し、原稿も何も見ず、すらすらと大変わかりやすい講演でした。安倍政権の危険性と危うさを一番言いたいと話されました。独裁政治ぶり、選挙ではアベノミクスと経済のことしか争点にせず、勝利したら、国会審議なしで、特定秘密保護法、集団的自衛権の行使など強行採

決している。安保法制も同様である。国民は、いかにげんに気がつかなくてはならない。だまされてはいけないのである。選挙にやぶれはしたが、後悔はしてないとのことでした。日本人は劇場型選挙・マスコミを巻き込んだ選挙に弱い。いわゆる「風」がふくと流されてしまう。71年前にあのような戦争が起こったのも当時の日本に「風」が吹き、あおられてしまったからだ。ダメなものにはダメと言えないと、また戦前



記念講演された鳥越俊太郎氏

福島復興のためには、その作業に従事する労働者の労働環境や労働条件の改善が必要で、営利に走った工事ではなく、国が責任をもつて進めていくべきだと感じました。

2日目の分科会ではストレスチェック制度について学びました。法律で義務化するということは「まあ色々あるけど、とりあえずやってみよう」ではダメで、そこには責任が問われてきます。それぞれの事業所で中身を吟味して取り組んでいくことが必要だと学びました。

「働くもの」について、様々な視点から考えさせられる貴重な時間となりました。

第13回全日本民医連共同組織活動交流集会 in 石川

藤代薬局 薬局長 木村 匡宏

9月4日(日)〜5日(月)、加賀市文化会館などで行われた第13回全日本民医連共同組織交流集会に参加しました。「決めるのは私たち 憲法をいかに平和・人権・環境を守るように地域まるごと安心して住み続けられるまちづくりを」というテーマで全国から2000人を超える参加者が盛大に開催されました。

1日目全体会の記念講演では城北病院副院長の柳澤深志氏による「いのちに寄り添う民医連共同組織」というテーマで講演が行われました。患者様に寄り添う終末期の姿がはつきりと浮かんでくるようでした。「病気だけでなく生活や仕事を大事に」、「もっとも困

難な人に光を当てるとみんなに光が当たるはず」という言葉がとても印象的でした。

2日目は9つの分科会に分かれて行われました。私は第7分科会「夢を実現する事業活動の取り組み」に参加し「新薬局建設に向けて患者様アンケート結果について」を発表しました。発表後、フロアの方から薬や健康食品の安全な飲み方について、情報提供を待っているだけではなく、薬剤師側から積極的にアピールしていく必要があるのではないかとご意見をいただきました。

全体を通して、テーマにあるように「決めるのは私たち」という気持ちが多く



参加者の皆様と木村薬局長(最後列左から2人目)

に戻ってしまう。改憲勢力が3分の2を占めたが、世論調査を見ても憲法改正にYESという国民は少ない。しっかりと声をあげていってほしいと述べられました。

